※日本ユネスコ国内委員会第13回文化・コミュニケーション小委員会
(令和7年3月4日開催 配布資料3「世界の記憶」について) より抜粋

「世界の記憶」について

2. 世界の記憶「暫定一覧表」の作成について

(1) 問題意識

- 「世界の記憶」については、これまで、国内への広報発信や、信託基金(JFIT)を通じた世界における記録物の保護等に努めてきたところ。
- 他方、国内の現状を見ると、**登録申請は、アジア太平洋地域登録を中心に低調であり、登録基準を満たす申請物も多くはない状況。**
- また、公募開始から国内審査、ユネスコへの申請までの期間が約半年と短期間であることで、申請案件の「**世界的重要性や完全性等**」に関する**説明・ストーリーの構成が十分でないまま申請に至らざるを得ない**、との指摘もあり。
- こうした状況を踏まえ、「世界の記憶」の趣旨にふさわしい**良質な案件を、積極的に発掘して「暫定一覧表」として整理し、文部科学省として申請の後押しをする仕組みを整えてはどうか。**

(2) 今後の進め方（案）

- 「世界の記憶」の次期申請サイクルの審査が終了するまで（**2025年秋まで**）の間、**国際統括官付**において、体制等の素案を検討。
- その後、『**世界の記憶国内案件に関する審査委員会**』において、同委員会との関係を含め検討を深め、**2026年度**を目途に、「暫定一覧表」の作成に向けた作業を開始。